

ごあいさつ



一般社団法人岩手県芸術文化協会
第72回岩手芸術祭実行委員会

会長 柴田和子

芸術の秋を彩る岩手芸術祭が本日ここに「芸術で拓く 新しい時代 ともに築く 岩手の文化」をテーマに開幕いたします。

県内最大の総合芸術祭であり、そして全国で一番歴史のある「岩手芸術祭」は、県民の芸術文化活動の成果を発表する場として、また、芸術を身近に鑑賞できる場として回を重ね、今年で第72回目を迎えることになりました。これまでの県民の皆様の御理解と御支援に対しまして、心から感謝申し上げます。

今年度も、第72回の岩手芸術祭を盛り上げるため、岩手芸術祭総合フェスティバルと合わせて二日間にわたる第3回芸術体験イベントを開催するとともに、岩手芸術祭の県民総参加的な盛り上げを図るため、久慈地区においても、岩手芸術祭総合フェスティバルを開催することにしております。

今年の岩手芸術祭総合フェスティバルは、新元号 令和の英訳であります「ビューティフル・ハーモニー」をテーマにサブタイトルは ～明日という日のプロローグ～ としてプログラムを構成し、幅広いジャンルの県内の優れた文化芸術団体の出演のほか、昨年に引き続き、隣県の文化芸術団体にも御出演をいただき、多種多様なジャンルの出演による令和の幕開けに相応しい華やかなステージが繰り広げられます。

どうか最後までごゆっくりご鑑賞をいただき、温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本事業の開催にあたり、御尽力くださいました関係者の皆様に心から感謝申し上げ、ご挨拶といたします。



あすという日が

作詞：山本 瓊子 / 作曲：八木澤教司

大空を見上げてごらん あの枝を見上げてごらん
青空に手をのばす細い枝 大きな木の実をささえてる
いま生きていること いっしょうけんめい生きること
なんてなんてすばらしい

※あすという日があるかぎり しあわせを信じて
あすという日があるかぎり しあわせを信じて※

あの道を見つめてごらん あの草を見つめてごらん
ふまれてもなおのびる道の草 ふまれたあとから芽ぶいてる
いま生きていること いっしょうけんめい生きること
なんてなんてすばらしい

※あすという日がくるかぎり 自分を信じて
あすという日がくるかぎり 自分を信じて※

しあわせを信じて

(※ —— ※ みなさん 一緒に)

◎主催◎

岩手県 岩手県芸術文化協会 岩手県文化振興事業団 岩手日報社
IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手

◎後援◎

盛岡市 NHK盛岡放送局

◎協力◎

運営補助 岩手女子高等学校
記録撮影 岩手県写真連盟

◎企画◎

— 岩手芸術祭総合フェスティバル企画運営委員会 —

構成・演出……………大森 健一 (岩手県演劇協会)
演出補佐……………大沼 まゆみ (岩手県洋舞協会)
民俗芸能コーディネーター 藤沢 清美 (岩手県民謡協会)
合唱コーディネーター 太田代 政男 (岩手県合唱連盟)
舞台監督……………近藤 英一
舞台美術……………小笠原 卓雄 (岩手芸術祭美術展現代美術部門)

◎問い合わせ先◎

岩手県芸術文化協会 TEL. 019-626-1202

携帯電話の電源はお切りになるか、マナーモードにお切り替えてください。
主催者の許可のない撮影・録音は禁止させて頂いております。
大ホール客席での飲食は禁止となります。



第72回

岩手芸術祭

《総合フェスティバル》



テーマ
「芸術で拓く新しい時代 ともに築く 岩手の文化」

2019年10月5日(土)

開場 12:35 開演 13:00 岩手県民会館 大ホール

Illustration : Kouhei Oono / Design : Yasunori Yoshida

プログラム

- 司 会：甲斐谷 望（IBC岩手放送アナウンサー）
アシスタント：松館 七瀬（盛岡白百合学園高等学校3年）
第43回全国高等学校総合文化祭アナウンス部門優秀賞

テーマ：「ビューティフル・ハーモニー」～明日という日のプロローグ～

▼「太鼓」 宮古あばれ太鼓

- (1) 演 目／「波動」
海はその日その時によって様々な表情がある。静かなときもあれば荒々しい時もある。波を一つとっても静かに寄せる波やうねりを伴う波もある。これらを太鼓で表現するため、様々な種類の太鼓を様々な叩き方で表現し、それらが重なり合ってひとつになったときの迫力を感じて頂きたい。

- (2) 出演者／宮古あばれ太鼓
宮古の海やそこで暮らす人々の様子を太鼓で表現出来るような曲作りを目指しており、演目も、海にまつわる内容の曲が多くある。太鼓を通じて宮古の海をアピールし、海で生活する人々を表現しながら、元気・活気のある演奏が届けられるよう精一杯演奏します。

▼「ダンス 群舞とソロ」 藤井 淳子ダンススタジオ・金田 尚子舞踊研究所 岩手県洋舞協会

- (1) 演目1／群舞「たったひとつの」
◆藤井 淳子ダンススタジオ
飯島 福 石井 知花 遠藤 冬萌 菅原 円花
渡辺 陽登 八重樫 璃子
第32回こうべ全国洋舞コンクールモダンダンスグループ部門優秀賞（第1位）。
第76回全国舞踊コンクール現代舞踊第2部入賞（第8位）。
なかの東京国際コンペティション2019中学生部門第2位。

- (2) 演目2／ソロ「旋律」
◆金田 尚子舞踊研究所 長澤 ほのか
第33回ヨコハマ・コンペティションモダンダンスジュニア2第1位。
第32回こうべ全国洋舞コンクールモダンダンス部門ジュニア1部第1位。
第75回全国舞踊コンクール現代舞踊ジュニア部第2位。

▼「フラメンコ&津軽民謡」 中田 佳代子／岩手県民謡協会

- (1) 演 目／「DODAREBACHI ～Quien eres?～」
世界各国にある伝統芸能で芸術の発生の仕方は非常に似ており、土着的。フラメンコと民謡の歌詞を聞けば、日々の生活、嘆き、喜び、などが歌われているのが共通点である。人類皆兄弟！世界平和を願い、個人的なざ・盛岡出身者4人でおくるオリジナルな一曲。是非会場の皆さんも好きな場所で遠慮なく掛け声をかけて下さい！オレ！

- (2) 出演者／
◆フラメンコ／中田 佳代子
フラメンコ冒険家。バルセロナと盛岡を拠点に、国境なく活動中。
◆津軽三味線／二代目 井上 成美（黒澤 博幸）
3年連続津軽三味線日本一。
◆唄／吉田 やす子（津軽民謡）
平成30年度一般財団法人日本郷土民謡協会全国大会グランプリ受賞。
◆横笛／藤沢 東清
岩手県民謡協会会長

▼「岩手の二大盆踊り競演」 二戸市ナニャトヤラ保存会 岩手県立雫石高等学校郷土芸能委員会

- (1) 演目1／「ナニャトヤラ」
◆二戸市ナニャトヤラ保存会
ナニャトヤラの全国大会と称される北奥羽ナニャトヤラ大会で最優秀賞を3度受賞し、第1回・第2回東北絆祭りに出演。

- (2) 演目2／「上駒木野さんさ踊り」
◆岩手県立雫石高等学校郷土芸能委員会
郷土芸能委員会の前身は「よしゃれ研究会」で、1995年に委員会として創設され、およそ40年の歴史がある。今回の演目「上駒木野さんさ踊り」は雫石地域の中でも、七色の腰帯が揺れるように腰を入れて踊るのが特徴である。全国高校総合文化祭にて平成9年、17年、25年優秀賞受賞、令和元年文化連盟賞受賞。

▼ 特別出演「国指定重要無形民俗文化財 八戸えんぶり」青森県 塩町えんぶり組

- (1) 演 目／摺り初め、喜び舞、大黒舞、摺り納め
「八戸えんぶり」は、八戸地方に春を呼ぶ豊年祈願の郷土芸能。その名前は田をならす農具「えぶり」や、ゆすることを意味する「いぶり」に由来すると言われ、冬の間眠っている田の神をゆさぶり起こし、田に魂を込める儀式とされている。「えんぶり」の一番の見どころは、太夫（たゆう）と呼ばれる舞手が、馬の頭をかたどった華やかな烏帽子（えぼし）を被り、頭を大きく振る独特の舞。その舞は、稲作の一連の動作である、種まきや田植えなどの動作を表現したものである。

- (2) 出演者／塩町えんぶり組（八戸市）
青森県「あおもり10市大祭典」などに出演。

ジャグリングパフォーマー／山村 佑理

ジャグラー、ダンサー、役者。2009年ジャグリング世界大会決勝出場、2010年全国大会銀賞を受賞。ホールと一緒に踊る表現で、国内・海外のイベント、舞台、サーカス公演に出演。盛岡市在住。

▼ 式典「感謝のセレモニー」

長年、芸術文化に尽力されてきた方々への感謝

- (1) 受賞者の紹介と感謝状贈呈
(2) 「芸術祭テーマ」優秀賞表彰
(3) 主催者挨拶 岩手芸術祭実行委員会 会長 柴田 和子
(4) 挨拶 岩手県知事 逢増 拓也

感謝状受賞のみなさん	
<美術部門>	
■日本画部門／松田 津多子さん	■洋画部門／佐々木 千治さん
■書道部門／吉田 晨風さん	■写真部門／松島 哲夫さん
■デザイン部門／藤澤 敬悦さん	
<舞台等部門>	
■演劇部門／坂田 裕一さん	■茶道部門／澤野 宗桂さん
■華道部門／駒米 桐華さん	■合唱部門／大橋 文四郎さん
■弦楽部門／増田 真紀子さん	■三曲部門／細田 雅邦さん
■民謡部門／三上 牧蔵さん	
<文芸部門>	
■文芸評論部門／牛崎 敏哉さん	■短歌部門／藤村 孝一さん
■俳句部門／長谷川 かよ子さん	■川柳部門／佐藤 岳俊さん

芸術祭テーマ優秀作品

- 「芸術で拓く 新しい時代 とともに築く 岩手の文化」
作者 高橋 峻さん（花巻市）
伴 奏／岩手県立久慈高等学校マンドリン部

▼「宝生流能楽 高砂」 金野 泰大／岩手県能楽連合会

- (1) 演 目／「高砂」
相生の松によせて夫婦愛と長寿を愛で、人世を言祝ぐ能の代表的な祝言曲。
(2) 出演者／
◆シテ／金野 泰大
岩手県出身の宝生流能楽師。東京芸術大学別科能楽専攻修了。公益社団法人能楽協会会員。東京での舞台の他に、地元岩手にて能楽イベントを企画し、学校講演等を行っている。
◆笛／加藤 俊彦
特定非営利活動法人里神楽・神代神楽研究会代表。
◆地謡／岩手県能楽連合会宝生流会員など
岩手県能楽連合会宝生流会員及び金野泰大氏より能楽体験指導を受けている子どもたちほか。

▼「吹奏楽」 盛岡市立北陵中学校吹奏楽部 岩手県吹奏楽連盟

- (1) 曲目1／「交響曲第2番 “キリストの受難”」 F.フェラン 作曲
曲目2／「行進曲 “躍進”」 岩井 直溥 作曲

- (2) 出演者／盛岡市立北陵中学校吹奏楽部
指 揮／吉田 哲
全日本吹奏楽コンクール6年連続東北大会出場中で、令和元年度金賞受賞。令和元年度のコンクール演奏曲「交響曲第2番 “キリストの受難”」と岩手国体行進曲「躍進」を演奏。

▼「マンドリン」 岩手県立久慈高等学校マンドリン部

- (1) 曲 目／「舞踊風組曲第1番」 久保田 孝 作曲
(2) 出演者／岩手県立久慈高等学校マンドリン部
指 揮／村上 かの
「SMILE」をモットーに、部員一同日々の練習に励んでいる。令和元年度は全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクールや全国高校総合文化祭に出演。今回演奏する曲はテンポや拍子が目まぐるしく変化する。次々と変化していく踊りをお楽しみ頂きたい。県高校総合文化祭で2年連続最優秀賞。

▼「ピアノ」 佐藤 彦大

- (1) 曲目1／「乙女の祈り Op.4」 バダジェフスカ 作曲
曲目2／「ポロネーズ第6番変イ長調 Op.53 英雄」 ショパン 作曲
(2) 出演者／佐藤 彦大
岩手県出身のピアニスト。第5回サン・ニコラ・ディ・バリー国際ピアノ・コンクール（イタリア）第1位、第21回リカルド・ビニエス国際ピアノ・コンクール（スペイン）第2位。第62回マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽コンクール第1位。

▼「合唱」 岩手大学教育学部附属小学校合唱部 岩手県合唱連盟

- (1) 曲目1／「わたしはこねこ」
曲目2／「にじのうた」
曲目3／「ドレミのうた」
(2) 出演者／岩手大学教育学部附属小学校合唱部
指 揮／小川 暁美・ピアノ伴奏／松館 慧
昨年度は仙台フィルハーモニーや山形交響楽団との共演、NHK全国学校音楽コンクールで全国大会に出演など、多くの演奏の機会に恵まれた。本日は「心を震わせる音楽」を目指し、コンクール曲と、愛唱歌の1つ「ドレミのうた」を演奏する。令和元年度全日本合唱コンクール岩手県大会、NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール共に金賞受賞。

▼「合唱」 岩手県合唱連盟

- (1) 曲目1／「東日本大震災犠牲者に捧げる鎮魂の歌」
千葉 隆男 作詞 太田代 政男 作曲
岩手県公立学校退職校長会が、「東日本大震災犠牲者への鎮魂」と「ふるさとの復興」への願いを込め制作された曲。国内はもちろんのこと、世界各地で歌い継がれている。
曲目2／「三陸鉄道が行く」宇部 京子 作詞 上田 益 作曲
自然災害や戦火で傷ついた地域を中心に全国に広がる「レクイエム・プロジェクト」から生まれた“女声合唱のための「三陸鉄道が行く～小さな村の物語」”（全7曲）の中の終曲。大津波に飲み込まれ無残な姿となった町。その数日後、野田と久慈を走る三鉄の汽笛は、多くの人々に生きる勇気と復興への希望を与えてくれた。

- (2) 出演者／岩手県合唱連盟
北声会合唱団・都南混声合唱団・男声合唱団コールM・合唱団ビリーブ・コーラスすずらん
指 揮／太田代 政男・ピアノ伴奏／稻生 創

▼ フィナーレ 「あすという日が」 全 員

作詞／山本 瓊子 作曲／八木澤 教司

平成18年全日本合唱教育研究会（大阪）の委嘱作品として生まれた合唱曲。大震災直後、仙台市立八軒中学校の皆さんが学校に避難した被災者の皆さんの前で歌い、生きるエネルギーを与えた。岩手県でも多くの音楽団体が慰問に訪れて歌った曲。「あなたの歌で、おなかは満たされないが、心は満たされたよ！」の一言が今も印象に残る。

- (1) 指 揮／太田代 政男
(2) 伴 奏／稻生 創（ピアノ） 北陵中学校吹奏楽部

※本日の総合フェスティバルの様子は11月23日（土）昼12時よりIBC岩手放送テレビで放映されます。